

【参考資料】 荻窪駅周辺まちづくり方針と荻窪駅周辺都市総合交通戦略の施策との関係

●交通関連の取組と連携した総合的・一体的なまちづくりの推進

まちづくり方針 における目標	都市総合交通戦略の施策（実施工程）		
	短期（概ね5年）	中期（概ね5～10年）	長期（概ね10～20年）
目標Ⅰ－① 南北連絡動線の充実	駅と一体となった南北連絡動線の改善等		
	荻窪地下道及び環八通り地下通路の改善等		
目標Ⅰ－② 駅前広場機能の充実	駅周辺の開発にあわせた基盤整備		
	JR・メトロ間等の乗換え経路の改善		
目標Ⅱ－③ 主要生活道路等の整備	安全で快適な道路の整備		
目標Ⅰ－③ 歩行者等や自転車利用者の 安全性・快適性の向上	自転車と歩行者・自動車が共存できる環境整備		
	新たな自転車 利用の推進		
目標Ⅲ－③ 商店街等の歩行環境や買 い物環境の向上	まちなかでくつろぎ楽しめる空間の創出		
目標Ⅲ－④ 荷捌き環境の改善	荷捌きスペースの確保		

●駅周辺エリアにおける都市機能・防災機能の充実

まちづくり方針 における目標	都市総合交通戦略の施策（実施工程）		
	短期（概ね5年）	中期（概ね5～10年）	長期（概ね10～20年）
目標Ⅱ－① 拠点駅としての防災機能 の充実	駅周辺の開発にあわせた基盤整備（再掲）		
	駅や駅周辺における安全性の向上		
目標Ⅲ－① 多様な都市機能の充実	まちへ誘うにぎわい拠点の整備		
目標Ⅲ－② 共同建替えや協調的な土 地利用の誘導	駅周辺の開発にあわせた基盤整備		

●観光まちづくりの推進

まちづくり方針 における目標	都市総合交通戦略の施策（実施工程）		
	短期（概ね5年）	中期（概ね5～10年）	長期（概ね10～20年）
目標Ⅳ－② 歴史的・文化的資源を生か した観光まちづくりの推進	わかりやすい案内・誘導サインの整備		
	まちへ誘うにぎわい拠点の整備		
目標Ⅳ－③ 地域の魅力発信	駅周辺の回遊性の向上		

【参考資料】 杉並区荻窪駅周辺総合交通戦略連絡協議会の構成

区分	所属・役職			
学識経験者	日本大学	教授	大沢 昌玄	
	首都大学東京	名誉教授	高見澤 邦郎	
	株式会社都市計画設計研究所	代表取締役	関口 太一	
鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 東京支社 総務部企画室	企画調整課長		
	東京地下鉄株式会社 鉄道本部鉄道統括部	渉外・工事調整担当課長		
バス事業者	関東バス株式会社 運輸部	運行計画担当部長補佐		
	西武バス株式会社 運輸計画部	計画課長		
ハイヤー・ タクシー 事業者	一般社団法人 東京ハイヤー・タクシー協会	乗務員指導委員会副委員長		
	公益財団法人 東京タクシーセンター 指導部	施設管理課 課長代理		
	一般社団法人 東京都個人タクシー協会	業務課長		
警視庁	交通部交通規制課	都市交通管理室長		
	荻窪警察署	交通課長		
東京都	都市整備局都市基盤部	交通企画課長		
	第三建設事務所	管理課長 補修課長		
杉並区	政策経営部	企画課長		
	区民生活部	副参事（荻窪地域担当）		
	産業振興センター	産業振興センター次長		
	保健福祉部	管理課長		
	都市整備部		都市整備部長	
			まちづくり担当部長	
			土木担当部長	
			管理課長	
			都市企画担当課長	
			交通施策担当課長	
			副参事（荻窪地区まちづくり担当）	
			市街地整備課長	
			拠点整備担当課長	
			土木管理課長	
	土木計画課長			
	みどり施策担当課長			
	杉並土木事務所長			

【用語解説】

用語	説明
シームレス (P52、53、61、62、63、70、72、73、93、94、98、101)	シームレスとは、「継ぎ目のない」という意味であり、公共交通分野におけるシームレスとは、乗継ぎ等の公共交通機関間の「継ぎ目」や交通ターミナル内の歩行や乗降に際しての「継ぎ目」をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を全体として円滑かつ利便性の高いものとすることです。
自動運転公道実証実験 (P90、92、95、104)	平成30年1月に、区と民間事業者2社、東京大学の4者による協定をもとに、都内初となる住宅街の公道を利用した自動運転車の実証実験が井草森公園の周辺で実施されました。自動運転技術の発展により、将来的には交通事故の低減や渋滞の解消、高齢者の移動手段の確保などの効果が期待できることから、区は、締結した協定に基づき、今後も自動運転技術への協力を行っていくこととしています。
端末物流 (P30、66、80、94)	端末物流とは、物流事業者の広域的な物流施設や都市内配送用の物流施設（配送センター等）から、最終的な到着地に届けられる物流のことです。人や物の両方が集中する都市部においては、路上での荷捌き等による交通渋滞や歩行者との錯綜などから、端末物流対策が求められています。
デジタルサイネージ (P72、73、74、92、94、101)	デジタルサイネージとは、屋外・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って、情報を発信するメディアの総称です。ディスプレイ技術の発展、デジタルネットワークや無線LANの普及に伴い、施設の利用者や往来者に分かりやすく豊富な情報を提供する手段として活用されています。
トランスボックス (P72、73、92、94、101)	トランスボックスとは、電力供給のための変圧器やスイッチなどが収納されており、国土交通省が推奨している無電柱化に伴い、設置が必要となる機器のことです。荻窪駅周辺では、南口駅前通りのトランスボックス11基に、荻窪の歴史的・文化的な資源を紹介するラッピングを施しています。
トリップ (P17)	トリップ (Trip) とは、人または車両がある目的（例えば、出勤とか買物など）を持って起点から終点へ移動する場合に、その一方向の移動を表す概念であり、同時にその移動を定量的に表現する際の単位のことです。すなわち、パーソントリップは空間的な人の移動を表す概念であり、またその計測単位のことです。
ピクトグラム (P31、94)	ピクトグラムとは、案内用図記号のことで、不特定多数の人々が利用する公共交通機関や公共施設、観光施設等において、文字・言語によらず対象物、概念または状態に関する情報を提供するものです。日本工業規格 (JIS) にも定められ、視力の低下した高齢者や移動に制約のある方、外国人旅行者等も理解が容易な情報提供手法として、日本を含め世界中の公共交通機関、観光施設等で広く提示されています。